

2 0 2 4 年 度

入 学 試 験 問 題

国 語

注 意

- ・問題は **1** から **4** までで、14ページにわたって印刷してあります。
- ・試験時間は **50分** です。
- ・声を出して読んではいけません。
- ・解答用紙はA4判のオモテとウラに分かれてあります。
- ・答えは、問題の指示に従って、解答欄の決められた場所に濃く、はっきりと書きなさい。
- ・答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- ・字数指定のある問いはすべて、句読点・記号も一字と数えるものとします。
- ・答えはすべて別紙解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- ・解答用紙には受験番号、氏名を記入しなさい。

(正しい例)

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

(誤った例)

		3		5
1	2			

- ・マスの中に正しく数字を書き、空欄や文字のはみ出しがないこと。

学校 東洋大学
法人

東洋大学京北高等学校

次の問いに答えなさい。

問一 (1)～(5)の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。解答欄は解答用紙のウラ面です。

- (1) 川辺でナメらかな石を探す。
- (2) 丘の上からシヤヨウをながめる。
- (3) 隣家で屋根のシウゼンがはじまった。
- (4) 数ある彼の作品の中でもこれはクツシの名作だ。
- (5) 祖父のハカマイリに行く。

問二 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

せつかくすしという食べ物に關係する話を読んだばかりだ。次も食べ物が登場する短編を読んでみよう。

作者は 。国語の教科書には、よく『舞姫』や『山椒大夫』が載っている。でも、それらを読んで、「うわ、すごい作品だ。すごい作家だ」と感激し、の崇拜者となってしまう人は皆無ではないか。中高生にとっては『舞姫』は古めかしい言葉遣いを読むだけで一苦勞。内容を味わう余裕がなくて、どうしてもしんどい「勉強」という感じがしてしまう。他方、『山椒大夫』は人身売買のわかりやすいストーリーだが、^Cどうも盛り上がり^Bに欠ける。

実は、 は、通向けの作家だと思う。つまり、あれこれ文学作品を読んだ人にとっておもしろい作家。というのも、若いときに書いた『舞姫』なんかを除くと、 の作品の大半はものすごく冷静だからだ。読者を感じさせよう、おもしろがらせよう、びつくりさ

せやうというサーブス精神は希薄。ドキドキするストーリーを作ろうという様子もない。登場人物が大騒ぎしたりもしない。『山椒大夫』は、作家の筆が淡々としているだけでなく、登場人物たちも最悪の境遇にいろくせに静かだ。^E「姉さん、ボクたち売られちゃったんだよ！ どうしよう」と泣き叫んだりしないのだ。

（許光俊『世界最高の日本文学　こんなにすごい小説があった』光文社）

- (1) 傍線部 A ～ E の品詞として最も適切なものを A ～ コからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア	名詞	イ	動詞	ウ	形容詞	エ	形容動詞
オ	副詞	カ	助詞	キ	助動詞	ク	接統詞
ケ	連体詞	コ	感動詞				

(2) に共通して入る作家の名前をア～オから選び、記号で答えなさい。

[illegible]

(3) に入る作家と同時期に活躍した作家の名前をア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 三島由紀夫
イ 夏目漱石
ウ 本居宣長
エ 清少納言
オ 太宰治

問三 次の詩の一節に用いられている表現技法をア～オから二つ選び、記号で答えなさい。

ささやかな地異は そのかたみに
灰を降らした この村に ひとしきり
灰はかなしい追憶のやうに 音立てて
樹木の梢に 家々の屋根に 降りしきつた

(立原道造「はじめてのものに」)

- ア 直喩 イ 反復法 ウ 擬人法 エ 倒置法
オ 対句法

問四 (1)～(3)の傍線部の古語の意味として最も適切なものをア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(1) 花の色は うつりにけりな いたづらに わが身世にふる な
がめせしまに

- ア 面白半分に イ むなしく ウ 一瞬で
エ 悲しく オ 無邪気に

(2) なげけとて 月やはものを 思はする かこち顔なる わが涙
かな

- ア うらめしそうな顔 イ うれしそうな顔
ウ わかったような顔 エ さびしそうな顔
オ つまらなそうな顔

(3) 人もをし 人も恨めし あぢきなく 世を思ふゆゑに 物思ふ
身は

- ア 恐ろしいものと イ 憎めないものと
ウ 逃れられないものと エ どうにもならないものと
オ 不吉なものと

問五 (1)～(2)の□に共通して入る漢字をア～クからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- (1) 重 □ □ 圧 □ 魂
(2) □ 罰 減 □ □ 事

- ア 厚 イ 気 ウ 減 エ 天 オ 鎮
カ 存 キ 刑 ク 厳

問六 次の書き下し文を参考にして返り点をつけたとき、最も適切な漢文をア～オから選び、記号で答えなさい。

【書き下し文】これをきとせざるはなし

ア 莫_二不_レ奇_一之_一

イ 莫_レ不_二奇_一之_レ

ウ 莫_レ不_レ奇_レ之_レ

エ 莫_二不_レ奇_一之_一

オ 莫_レ不_レ奇_レ之_レ

2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、出題に際して表記を改めたところがあります。

小学校の健康診断で、律^{りつ}の視力は両目ともに0・9だった。これまでの十八年の人生で、両目の視力が1・0から落ちたことがない理佐^{りさ}からしたら、八歳で律の視力が下り坂に差し掛かっていることは驚き以外の何物でもなかった。おそらく読書のせいだろうと理佐は考えていた。

あまり暗いところで読んだりしないですよ、と言うと、はいはいわかりました、と律は気にもかけない様子で本を読んでいる。

「あのね、自転車がほしいんなら、りっちゃんの目が悪くなると困るんだけど」

「え、なんで？」

「めがねいるでしょ」

「あ、そうか」

「めがね高いんだから」

小学校の時に仲の良かった女の子がめがねを掛けていて教えてくれたことがあるのだが、一つで三万円近くしたらしい。そんなに貴重なものなんだ、と理佐は衝撃を受けた。

「どのくらい？ 十万とか？」

「そんなにはしないけど、冷蔵庫と同じくらいかも」

「わかった。気をつける」

律はそう言ったものの、本を読むのはやはりやめなかった。理佐が、とりあえず中学校までめがね禁止ね、と注意すると、律はちらりと理佐の方を見て、わかった、中学までね、とうなずいて本を伏せ、

しばらく自分もうつ伏せになって足をばたばたさせたりした後、あ、と声を上げて、部屋の隅のランドセルを開ける。

「めがねで思い出した。家庭訪問だよ」

担任の先生がさ、めがねなんだよ、と律はプリントを出して理佐のところを持ってくる。律が、これ、と言って学校のプリントを理佐に見せてくることを、理佐は最初は戸惑っていたけれども、四月も下旬になるとだんだん慣れてきた。内容は、給食費の納入のお願いだとか、登下校中の交通事故防止の注意喚起だとか、去年度のPTAからの寄付で小学校の近隣の危ない道にカーブミラーが設置されたことに関するお知らせなどで、お金に関する大事なものから細々とした報告までいろいろあった。

律が持ってきた「家庭訪問のお知らせ」によると、五月の連休明けに、各クラスの担任が家庭訪問をするのだが、仕事の都合などがあって時間が限られる保護者は、これこれの期間で希望の日にと時間帯を、キリトリ線の下に第三希望まで記入して児童に持たせていただきたい、とのことだった。そば屋の定休日は水曜だったので、理佐は水曜の時間帯を三つ書き、キリトリ線で折り目をつけて丁寧に切り離してから、律に渡した。

「水曜日か。せっかくの休みの日に申し訳ないね」

切り取った紙を眺めていた律は、大人のようなことを言っただけで、大事そうにランドセルにしまった。

五月の連休は、律には四日間あったがそば屋は休むでもなく、平常の営業日に沿って開店していたので、特に何もなかった。なんとなく、姉妹が引越してきた当初の生活に戻ったような感じではあったけれども、寛実や杉子さんがいたことは違っていたので、水車小屋に

毎日誰かが訪ねてきて律は楽しそうだった。浪子^{なみこ}さんは、山下さんも一日ぐらい休む？ と訊^きいてくれたのだが、理佐はいいですと答えた。浪子さんは少し考えて、じゃあ今月は第三日曜も休んでいいよ、たぶんお客さんそんなに来ないから、と休みを一日増やしてくれた。連休が明けた最初の水曜日の夕方、律の担任の藤沢先生^②は、姉妹の住んでいるアパートを訪ねてきた。律はいつものように、寛実と水車小屋で過ごしていた。

律さんの担任の藤沢静子と申します、と玄関先でお辞儀をした先生は、理佐が今まで現実で出会った人物の中でいちばん勉強ができそうな顔立ちに見えた。おそらく三十過ぎで、銀縁のめがねを掛けていて、化粧はしているものの薄く、髪を引つ詰めにしたひたすら地味な女性に見えたが、濃紺のジャケットの中に着ているシャツは白地に紫のピンストライプで、個性を主張しているように見えた。

理佐は生まれて初めて、来客にお茶を出すということをした。そば屋では毎日お客さんたちに水を出していたが、自分の家となると、妹の担任の先生にどういとお茶を出したらいいのかわからず、浪子さんに相談してお茶の葉を分けてもらい、店^Aから急須と湯呑^{ゆづみ}を借りた。

藤沢先生は、まだ小学三年になって一か月なので先のことはよくわからないが、律の成績がかなり良いこと、スポーツテストの五十メートル走が非常に速いこと、しかし投擲^{とうてき}が苦手なこと、授業中の態度は悪くないこと、質問があれば手を挙げずに休み時間に訊きにくること、クラスの女子とはまずまずそつなくやっていること、男子とは基本的に距離を置いていることなどを理佐に話した。

頭の良い生徒さんだと思います、と藤沢先生は、部屋の隅に横積み

になっている律の蔵書に軽く視線を向けた後に言った。

「しかし、申し上げて良いのかわかりませんが、やはり高校を出たばかりのお姉さんと二人暮らしであるというのは、率直に言って心配ではありません」

藤沢先生は、めがねのレンズ同士をつなぐ部分ではなく、レンズの銀縁の上下をつかんで位置を直す。藤沢先生は手が筋張っていて、理佐にはそれがどこか男っぽい動作のように見える。

「おうちでの律さんの様子はいかがでしょうか？」

「様子ですか……？」膝を突き合わせて妹の様子を大人にたずねられる、という状況が、人生で初めてのことだったので、理佐は戸惑いながら考え言葉をつなぐ。「本を、持つてるものも借りてきたものもすぐ読んでいます。テレビはアニメやクイズ番組を観ています。ときどき変なことを言いますが、わがままだなと思うことはほとんどないです。学校から家に帰ったら、わたしの仕事先のおそば屋さんを持つている水車小屋に行つて、鳥の面倒をしています」

藤沢先生が縁を持つてめがねの位置を直したことになるか焦つて、あの、水車小屋には内側から門が掛けられますよ？ だから知らない人は入つてこれません、と急いで理佐が付け加えると、鳥ですか？と藤沢先生は理佐の説明とは直接関係のない問いを返した。

「鳥です。しゃべる鳥」

ヨウムだそうです、という理佐の言葉に、なるほど、と言いながら、藤沢先生は首をひねつて、そば屋の水車小屋にヨウム……、と呟く。そしてすぐに我に返つたように、親御さんとは連絡を取られておりますか？ とネネとは関係のない質問をした。

「はい、あの……」

この「はい」は質問を承りましたの「はい」で、決して「あなたのおっしゃることを肯定しています」の「はい」ではないのだが、なんとか悪くないように受け取つてはもらえないかと理佐はできるだけ含みを持たせておらずと笑顔でうなずいてみせる。

母親には、こちらに引越してきたその日と、律の始業式にしか連絡していない。理佐からの電話に出ると、母親は、二人とも元気？住民票も移しちゃったのね、とそれだけだった。後は自分と、自分の婚約者の話だ。事業は本格的に軌道に乗りだして、自分も取締役として関わるかもしれないという。通話の最後に、飽きたら戻つてきなさいね、近所の人に最近あんたたち見ないけどって言われて恥ずかしい思いしたから、と母親は付け加えた。

期待などしていたわけではないけれども、理佐の学費のことも、婚約者からの律への仕打ちのことも、母親は何も言わなかった。

「あの……？」

「元気か？ と訊かれて、元気ですと」

「それだけ？」

「あと、困ったことがあったら言つてね、と」

理佐は嘘をついた。そんなことは母親は言っていない。悲しい気持ちだ、と理佐は思う。

「困ったことはありませんか？」

「今のところはありませぬ」理佐は少し考えて、いえ、あります、と言ひ直す。「律の目が悪くならないように、暗いところとか変な姿勢で本を読みすぎないように指導してもらえますか？」

「承りました」

藤沢先生は、銀縁のめがねの位置を直して大学ノートに何か書き付

けていく。

「お願いします」

「こちらからもお願いがあります。私の方から、親御さんに連絡を取ってもよろしいでしょうか？」

藤沢先生は、ノートから顔を上げて理佐を真っ直ぐに見る。地味で暗そうな人。でも、あからさまにそう思われても平気なぐらいには、自分の仕事と知性に自信のある人。

「いいですけど、たぶん、どうにもならないと思います……」

「どうにもって？ お二人はここで暮らし続けるということですか？」

「はい。たぶん」

「了解しました」

その「了解」は賛成なのか反対なのか、外側からはほとんどわからない顔つきで、藤沢先生はうなずいた。

帰り際に、お目にかかれて良かったです、と藤沢先生は一礼した。

理佐も、ありがとうございます、ありがとうございます、と何度も頭を下げながら、大人はもう一種類ぐらいここで何か違うことを言うんだと考えつつも、思い出すことはできなかった。

藤沢先生が帰ると、律が杉子さんを連れてアパートに帰ってきた。

寛実ピアノの練習があるというので家に戻ったそう。寛実がその場にいない理由について、律はいつも「ピアノの練習があるから」と言っていた。小学三年で、そんなに一所懸命やっていることがある寛実を、理佐は少しうらやましく思った。

三人で、杉子さんが持ってきたびわをむいて食べた。先生どうだった？ と杉子さんに訊かれて、理佐は、緊張しました、と少し体をす

くませながら答えた。

「そりゃそうよね。私なんか人生で一度も誰かの家庭訪問なんて受けたことないから、この年でも緊張すると思うわ」

自分のことじゃないっていうのがまた複雑よね、と杉子さんは続けながら、おいしそうに水を飲む。食料品店の店先で安売りしていた適当なコップで水道の水を出せる人がやってきて、理佐はほっとしていた。

「成績が良くて、足が速いんだって」

「やった！」

「」

杉子さんは、にこにこ笑いながら律の背中を軽く叩いた。その様子を眺めていると、藤沢先生が姉妹の生活を不安がることへの不安が、少し薄らいだ気がした。

杉子さんが帰ると理佐は、りっちゃんかき、お母さんのところに帰りたいと思う時が来たら、遠慮せずに言ってみてね、と思い切って律に告げた。それを聞いた律は、一瞬呆気にとられたような顔をして、なんでもそんなこときくの？ と問い返してきた。

「だってさ、冷蔵庫も自転車も当分ない生活なんだし、いやになるかもなと思って」

本当はもっと根本的な懸念があるのだが、理佐はとりあえず目に見えるところから検討させることにする。律は首を傾げて、少しの間真面目に考える様子を見せた後、首を横に振った。

「まだいやにはなっていないし、これからもならないと思う」律は小学三年なりに言葉を選んでいうようだった。「おねえちゃんも、いやになったら言ってみて」

「うん。まあそれはないと思うけど、うん」

理佐はうなずきながら、むしろ選択肢があるのが自分の方であることを、律に対して申し訳なく思った。そんなことは絶対にしないけど、自分は律を放り出そうと思えばできるのに対して、律はそういうことになったら母親と婚約者の元に戻るしかない。

難しい漢字が読めて、自分が見た鳥がヨウムであることがわかって、それでも子供だというだけで律は自由を制限され、保護を必要としている。

理佐は、とにかくあの先生に認められる程度には、律をちゃんと生活させなければならぬ、と強く思った。

（津村記久子『水車小屋のネネ』毎日新聞出版）

*1 寛美……律の小学校での友人。

*2 浪子……夫とそば屋を営んでいる女性。理佐の雇い主。

*3 ネネ……水車小屋にいるヨウムの名前。

問一 傍線部①「杉子さん」が理佐にとって気のおけない存在であることがわかる三十字程度の言葉を本文中から探し、その**最初と最後の五字**を抜き出して答えなさい。

問二 傍線部②「藤沢先生」について理佐はどう考えていますか。その説明として最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 理佐にとっては、思わず恐縮してかしこまってしまうほど緊張を感じさせる大人である。だが、自分がこれからも律と良好な関係を築いて生活していくためには、何かと彼女に助けてもらわなければならぬと理佐は考えている。

イ 理佐にとっては、律の保護者として向き合うことになった初めての大人である。同時に、授業中の態度や日ごろの行動をととてもよく観察し妹のことを正しく理解をしているという点で、警戒すべき人物だと理佐は考えている。

ウ 理佐にとっては、細々した動作まで意識してしまうほど自分たちをどう見ているかが気になる人物である。そして、妹の担任教師という身近でない大人の信用を得られるくらい、自分はしっかりしなければならぬと理佐は考えている。

エ 理佐にとっては、自信にあふれた様子がどうしても苦手と感じられてしまう人物である。一方で、大人として律と自分の身の上を真剣に心配していることは言動から了解しており、その気持ちに誠実に応えていきたいと理佐は考えている。

オ 理佐にとっては、律との生活を心配するふりをしながら二人に干渉しようとする目障りな大人である。しかし、そうした人物にこそ、自分たちの生活には何の問題もないことを分かせ信用されなければならないと理佐は考えている。

問三 傍線部③「暗いところとか変な姿勢で本を読みすぎないように指導

してもらえますか？」とありますが、このように理佐が言う理由と、その後の心情の説明として最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 律の視力が読書によって下がり、出費がかさむ事態になるのを避けるための発言だったが、欲しいものをたやすくは手にすることができない生活を律に強いていることに心苦しさも感じている。

イ 読書をやめない律に、一緒に注意をして欲しいという思いからの発言だったが、自分に頼って生活していかなるをえない律に對して行き過ぎたことをしたと申し訳ない気持ちにもなっている。

ウ 律が自分の言うことを聞かないため、学校の先生の協力を得ようとした発言であったが、律をいつでも放り出すことができる自分をもっと強い態度に出るべきだったと悔しい思いも抱えている。

エ 律の視力が下がったとしても、めがねを購入する金銭的余裕がないことを受けての発言であったが、律の自由を奪う自分の言動は母親代わりとしてふさわしいものではないと反省もしている。

オ 自転車や冷蔵庫を買うべく家計を切り詰めなければならぬ中での発言であったが、律から読書の機会を奪うことになっているということに後で気づき、めがねを買おうかどうか悩んでいる。

問四 に入る言葉として最も適切なものをア～オから選び、記号

で答えなさい。

ア 怒られてばかりだったからね
イ 先生には見る目がないみたいね
ウ まだまだ全然だめじゃないの
エ もう足りないものはないじゃない
オ 私だったらそうは思わないわね

問五 傍線部④「藤沢先生が姉妹の生活を不安がることへの不安」とあり

ますが、それが表れた行動として最も適切なものを波線部A～Eから選び、記号で答えなさい。

問六 本文の表現や内容の説明として最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 三者面談のプリントを理佐に渡すことを律が思い出す場面では、連想を鮮やかに働かせる律の賢さが強調されて描かれている。
イ 浪子が理佐に休みを一日多く与えるくだりは、簡潔な表現ながら彼女が理佐のことを気にかけていることをうかがわせる。

ウ 三者面談の間いつものように律は寛美と水車小屋にいたという表現は、律が人見知りをする性格であることを暗示している。

エ 寛美がピアノの練習に一所懸命にはげんでいるという説明から、寛美はヨウムの世話を仕方なしに行っていることが分かる。

オ 理佐と律の会話にある「おねえちゃんも、いやになったら言うて」という発言は、律が理佐の重荷になるまいととっさについた嘘である。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、出題に際して表記を改めたところがあります。

消費社会は僕らに何の贅沢^{ぜいたく}も提供していない。「次はこれだ、その次はこれだ」と僕らを消費者になるように駆り立てている消費社会は、僕らを焦^{あせ}らせているだけで、すこしも贅沢など提供していない。つまり消費社会の中で僕らは浪費できていない。僕らは浪費家^{れいひや}になって贅沢を楽しめるはずなのに、消費者^{しょうひや}にされて記号消費のゲームへと駆り立てられている。

だとすれば、むしろ贅沢を求め、物そのものを受け取って浪費するところ^{ところ}が大切ではないのか。それは人間に充実感や豊かさをもたらす。そして何より、浪費は満足によって止まる。物の受け取りには限界があるからです。それに対して消費には限界がない。だとすると、消費社会がもたらす贅沢を退けて「清貧^{せいひん}」^①に生きるべきだという主張は、消費社会の根本的な特徴のみならず、人間にとつての豊かさの大切さをも捉え損ねている。これが『暇^{*}と退屈の倫理学』の大きな主張の一つでした。

浪費はどこかで満足に達して止まるという点は極めて重要です。なぜならば、自分たちが奪われている楽しみや豊かさを取り戻すことによつてこそ、大量生産・大量消費・大量投棄に基づく消費社会の悪循環に亀裂を入れることができるという視点が得られるからです。ここからは、むしろ贅沢を求めることによつてこそ社会は変わるという結論が導かれます。実際にそうだと思います。物をきちんと受け取って楽しむことが全般化すれば、社会は変わります。

ちよつと脱線しますが、皆さんは「イギリスの食事はまずい」^②とよく言われていることは知っていますか。実際のところ、最近^{おひ}は美味し

いんですけどね。確かに一時期までは本当にひどかったようです。かつてのクオリティーの食事を提供する古い食堂は残っていて、そういうところで食べると塩味が付いていない。というのも、食卓にある胡椒^{しやう}と塩で各自が自分向けに調整して味付けすることになっているからです。これには面食らいました。

しかし、イギリスの料理はずっと昔からまずかったわけではなく、それは一九世紀に産業革命と農業革命から決定的な悪影響を受けたこと^{こと}の帰結であるという西洋経済史家、小野塚^{おのづか}知二^{ともじ}氏の研究があります。もともとはイギリスにも豊かな食文化があった。それが産業化によつて破壊されたというのです。「産業化の過程で村と祭りを破壊したイギリスは、培^{つちか}ってきた食の能力を維持できず、味付けや調理の基準も衰退して、料理人の責任放棄^{まんえん}が蔓延^{まんえん}することとなった。他国の農業革命はイギリスほど徹底的に村と祭りを破壊しなかったので、民衆の食と音楽の能力は維持されたのである」とあります。

この研究を紹介している政治学者の白井^{さし}聡^{さとし}さんは次のようにコメントしています。「資本の側は、『そんな贅沢^{ぜいたく}しなくていいじゃないか』とささやいてきます。『毎日カロリーメイトだけ食べてたつて、別に十分生きていけるよ』というささやきは、いくらでも聞こえてくるし、確かにそれで生きていけないことはない。／そのとき『それはいやだ』と言えるかどうか。そこが階級闘争の原点になる」。ここに紹介されているのは、まさしく、贅沢が奪われていった過程、そして、贅沢があったことすら分からなくなつてしまっている現状に他なりません。白井さんの本はマルクスの『資本論』の入門書なので「階級闘争」という言葉が使われていますが、別の言い方もできるはずです。いま僕らは浪費して贅沢を楽しむ満足に至ることができません

のに、それを奪われている。^③贅沢を求めることによってこそ社会は変わるのだ、と。【ア】

さて、こうして贅沢について考察を深めていくとだんだん見えてくるのが、贅沢と目的の関係です。贅沢の本質には、目的なるものからの逸脱があるのではないのでしょうか。たとえば、食事をするのは栄養を取るためであり、栄養摂取が食事の目的であると考えすることはできます。確かに栄養摂取は食事にとつての欠かせない要素です。

しかし、食事と栄養摂取を等しいものと捉えることができるでしょうか。栄養摂取をしていれば、人間は確かに生存できるけれども、食事を生存という目的に還元することができませんでしょうか。還元してよいのでしょうか。我々が豊かさや充実感を感じるのは、目的をはみ出た部分によつてです。確かに食に目的を設定するならばその目的は栄養摂取である。けれども、食がその目的しか追求しないようになったら、食における人間らしさは失われてしまうと言ふべきではないでしょうか。その意味で、食が持つ栄養摂取という目的を超え出る経験、すなわち贅沢の経験が人間の食には欠かせないと言ふことができるでしょう。食はその目的には還元できない側面を持っている。【イ】

同じことが、衣についても言えるでしょう。衣服は確かに保温等によつて身を守ったり、身を覆って隠したりすることを目的としています。しかし、衣をそうした目的に還元できるでしょうか。還元するべきでしょうか。住についても全く同じことが言えます。つまり、楽しんでる浪費したり贅沢を享受したりすることは、生存の必要を超え出る、あるいは目的からはみ出る経験であり、我々は豊かさを感じて人間らしく生きるためにそうした経験を必要としているのです。必要と目的に還元できない生こそが、人間らしい生の核心にあると言ふこと

ができます。【ウ】

それに対し、現代社会はあらゆるものを目的に還元し、目的からはみ出るものを認めようとしないう社会になりつつあるのではないか——これが今日の話で皆さんと共有したいと思つている問題です。消費社会の論理は二一世紀になった現在でも支配的であるけれども、他方で、すべてを目的に還元する論理がそれと を結んでこの社会を覆いつつあるのではないか。

この点について考えるために、先ほどの白井聡さんの問題提起を振り返ってみましょう。白井さんは「毎日カロリーメイトだけ食べてたつて、別に十分生きていけるよ」とささやく資本の姿を描いてみせました。資本はなぜそのようにささやくのか。ここに描かれているのは、消費社会の中にいながらも贅沢をボンヤリとだが想像し始めた人間、贅沢はここにはないとボンヤリとだが気づき始めた人間に、「贅沢なんてなくていいじゃないか」「贅沢を求めるなんて非倫理的じゃないか」とやんわりと説教している資本の姿に他なりません。つまり資本は、現状に対して疑問を抱き、何事かに気づき始めた人間を、これまで通りの消費社会の論理に連れ戻そうとするのです。だとすると、すべてを目的に還元する論理、目的をはみ出るものを許さない論理は、消費社会の論理を継続するために、現在、この社会でその支配を広げつつあるのだと言ふことができるのではないのでしょうか。

ここで^④コロナ危機下の現代社会についての僕の仮説を述べておきたいと思ひます。確かにコロナ危機下で社会は大きく変容したように見えます。しかし、不要不急と名指されたものを排除するのを厭わないう社会の傾向——この傾向はこの四字熟語を使つていない多くの諸外国でも同様と思ひられます——は、実はそもそもコロナ以前から少しずつ

進行していた社会の傾向ではないか。そして、より抽象的な言葉で言い換えるならば、その社会の傾向とはつまり、目的をはみ出るものを許さないという傾向ではないか。【工】

そもそも、なぜ消費が浪費と混同されてしまうのでしょうか。それは消費社会が必死に「消費こそが贅沢をもたらすのだ」と消費者を説得し続けているからでしょう。だからこそ消費社会は、贅沢に気づき始めた人間には、「必要や目的を超えて何かを求めるなんておかしいでしょ」とまるで倫理を論ずかのようにささやいてくる。この二つの論理、すなわち、人々を記号消費のうちに留めおこうとする論理と、必要や目的を超え出る浪費を行おうとする人間にその贅沢を戒める論理とが手を結んだところに現代社会があり、コロナ危機下、「不要不急」と名指されたものを排除するのを厭わない傾向が容易に支配的となれたのは、もともとこの二重の論理が支配的だったからではないでしょうか。それは比喩的に言えば、食事を栄養摂取に等しいものと捉える社会です。【オ】

だとすると、コロナ危機下で起こっていることを「コロナだから仕方がない」という一言で片付けるわけにはいなくなります。もちろん、一時的に様々な活動が制限されねばならなかったことは間違いのない。けれども、だとしても、コロナ危機下に起こっていることを先の一言で片付けてはいけない。それは、コロナ危機だから進められたことではない可能性があるのです。批判的に検討されるべきだった傾向が、コロナを理由にして推進されているだけかもしれないのです。

（國分功一郎『目的への抵抗』株式会社新潮社）

*『暇と退屈の倫理学』……本文の筆者である國分功一郎の前置。

問一 本文には次の一文が脱落しています。【ア】～【オ】のどこに補うのが最も適切ですか。記号で答えなさい。

実際、食事を栄養摂取と等しく捉える人を前にしても、僕らはあまり驚かなくなっています。

問二 傍線部①「人間にとっての豊かさの大切さ」とありますが、人間と豊かさの関係についての説明として最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 欲望をかきたてる必要や目標を否定し、再び設定することでもしか人間は豊かさとは何かということを知ることができない。そして、豊かさを知ることでも人間らしい生をまっとうすることができない。

イ 贅沢を避けた必要や目的にかなった生活こそが、豊かな生活と呼ぶべきものである。そして、豊かで自足した生活の中で必要と目的に還元できない生という人間本来の生き方を送ることができる。

ウ 倫理として語られる必要や目的に疑いを持ち、逸脱しようとすることによってこそ豊かさを感じる可能性が生まれる。そして、豊かさを感じるによって人間は人間らしい生を送ることができる。

エ 目的や必要といった欲望に制限をかける要素にとらわれず、それらを超え出ようとするところに豊かさを感じられる余地がある。そして、豊かさを感じることで人間は贅沢をすることができる。

オ 目標や必要のような消費社会を反映した倫理に疑問を感じ、正そうとする姿勢が充実感や豊かさをもたらす。そして、豊かであるからこそ人間は市場で浪費する主体として行動することができる。

問三

傍線部②「『イギリスの食事はまずい』とよく言われている」とありますが、それを説明した次の文の A B に入る言葉を、本文中から抜き出して答えなさい。なお、 A には九字、 B には二十一字の言葉が入るものとしますが、 B については最初と最後の五字を答えなさい。

イギリスの料理がまずいと言われているのは、 A が豊かな食文化とその基盤となる村や祭りを破壊したからであり、また、その結果現在では豊かな食文化が B のである。

問四

傍線部③「贅沢を求めることによってこそ社会は変わるのだ」とはどういうことですか。その説明として最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 物を得て豊かさを感じようという傾向が減少することで、社会が資本家に支配されなくなること。

イ 物自体を通じて満足を得ようとする態度が一般化することによって、社会の価値観は一変すること。

ウ 楽しみや満足感を求めるといふ考え方が広く共有されることで、社会はより進歩し複雑になること。

エ 人々が豊かな生活を求めて階級闘争を展開することによって、正しい社会体制が確立されること。

オ 実体的な事物を消費するという傾向が拡大することによって、理想的な社会の実現が近づくこと。

問五

に入る言葉として最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 共犯関係 イ 背後関係 ウ 相克関係 エ 権力関係
オ 上下関係

問六

傍線部④「コロナ危機下の現代社会」についての説明として適切ではないものをア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 不要不急と判断されたものを排除するのを厭わない傾向は、日本以外の国々においても見られるものだと考えられる。

イ コロナ危機下で消費と浪費が混同されるようになってしまったことによって、社会に大きな変化が起きてしまった。

ウ カロリーメイトだけ食べていても生きていけるというような人々を浪費から遠ざける考え方は、コロナ危機後も社会のあり方に影響を与えている。

エ コロナ危機下の社会で起こっていることを、「コロナだから仕方がない」と納得するだけでは十分だとは言えない。

オ コロナ以前から存在していた批判的に検討されるべきだった傾向が、コロナを理由にして社会で推し進められている。

問七 本文の論述の特徴として最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 著者が有している危機感について、日本社会やイギリス社会の研究者の著作を批判的に引用しつつ繰り返し説明している。

イ 新型コロナウイルス感染症の消費への影響について、潜在している社会的傾向と関連づけながら批判的に説明している。

ウ コロナ危機下に生きる人間が常に気に留めておかなければならない問題について、具体的な例を示しつつ平易な言葉で説明している。

エ 浪費と消費の問題について、他の論者の著作を引用したり社会的な問題と関連させたりしながら具体的に説明している。

オ 消費社会における典型的な傾向について、時代や地域ごとの人間の感性の変遷を明らかにしながら歴史的に説明している。

4

次の問いに答えなさい。
解答欄は解答用紙のウラ面です。

哲学者であるアルトゥール・ショーペンハウアーは「幸福は外にあるのではない。自分の内面にあるのである。」という言葉を残しています。「幸福」が「自分の内面にある」とはどういうことだと考えますか。あなた自身の体験を挙げ、一三〇字以上、一五〇字以内で説明しなさい。

注意事項

- ・ 解答欄の一マス目から書きなさい。
- ・ 段落を作ってはいけません。
- ・ 句読点や記号も一字とし、必ず一つのマス目を使いなさい。
- ・ 漢字で書けるものは漢字で書きなさい。
- ・ 書き言葉を使いなさい。

【下書き】

[illegible]

1

問一 解答欄はウラ面です。

問二	(1)	A
	(3)	B
		C
		D
		E

問三		

問四	(1)	(1)
	(2)	(2)
		(3)

問五	(1)	(1)
	(2)	(2)

問六		

2

問一		

問二		

問三		

問四		

問五		

問六		

3

問一		

問二		

問三	A	B

問四		

問五		

問六		

問七		

4

解答欄はウラ面です。

合	
計	

氏	
名	

受験番号					
------	--	--	--	--	--

1

問一 解答欄はウラ面です。

(1)	A	オ	B	コ	C	ア	D	ウ	E	エ
-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(2)	オ	(3)	イ
-----	---	-----	---

問三 順不同各1点

(1)	ア	エ	(3)	エ
-----	---	---	-----	---

(1)	イ	(2)	ア
-----	---	-----	---

問三以外各1点

ウ	オ	キ	水を を出 出せ せる る人
---	---	---	----------------------------

2

問一	食料品店の	水を を出 出せ せる る人
問二	ウ	
問三	ア	
問四	エ	
問五	イ	
問六	イ	

各5点

30 2

3

問一	オ	ウ	A	産業革命と農業革命	各3点
問二			B	あ	
問三				た	
問四	イ			こと	
問五	ア			ま	
問六	イ			て	
問七	エ			いる	

問三以外各4点

30 3

4

解答欄はウラ面です。

受験番号						氏名	
------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----	----------------------

合計	
----	----------------------

(4)

屈指

(1)

骨

らかな

(5)

墓參

り

(2)

斜陽

(3)

各
1
点

修繕

150

130